

長畝ふるさと通信



【2024年12月号】

■ あけましておめでとうございます。

あけましておめでとうございます。昨年の元旦は能登地震の影響で大わらわでしたが、今年は静かなお正月を迎えることができました。初詣は地元の気比神社。参拝に来るのはもちろん地元の人だけなので閑散として行列もありません。全国的に有名な神社やお寺には信じられないくらい大勢の参拝客が大挙して参列し、お賽銭は10億円にもなるそうです。我が気比神社は1年間で1万数千円ですから氏神様のモチベーションも上がりませんわな。これが経済です。

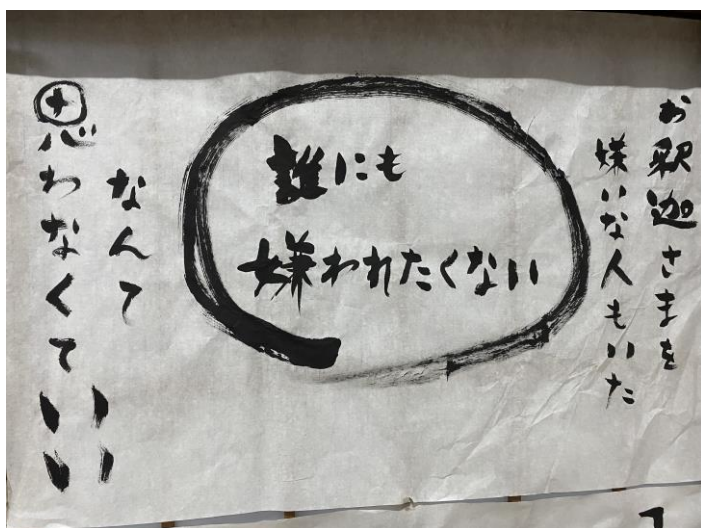


● 朝9時、誰もいません

■ 令和7年のコメ情勢はどうなる

昨年は「令和のコメ騒動」が勃発し、全国的なコメ不足からコメ相場が爆上がりしました。新米が出回れば年末頃には落ち着くでしょうと勝手に予測していましたが、年を明けてもなおコメ価格は上がり続けているようで、諸物価の高騰もあり「このままでは益々コメ離れが進んでいく」と懸念しています。百姓から言わせれば「コメが足りないのならもっと作れるようにして欲しい」と単純に思うのですが、足かせになっているのが「減反政策」です。

国やJAはコメの需要が毎年10万トンずつ減少するという前提で減反(生産調整)を50年以上続けてきました。「コメが余ると安く買ったたかれて、農家が困るから」という論法ですが、その結果米価は上がらず、コメ百姓はず〜とギリギリの経営をしているのです。一方で年間消費予測ギリギリの生産量しか作らせていない



ので、ちょっと動向が変わるとたちまち昨年のようなコメ不足騒動が起きてしまいますが、今年の生産調整が緩和される動きは全くありません。我が国の主食は一体どうなるのでしょうか…。

7年産米も皆様の食べる分は必ず確保するので、ご安心ください。おかわりはちょっと減らすかも…